

令和5年(2023年)9月28日 <No-9>

長野県松本家畜保健衛生所
〒390-0851 松本市島内西川原 6931
TEL:0263-47-3223 FAX:0263-47-0101
E-mail:matsukachiku@pref.nagano.lg.jp
中信家畜畜産物衛生指導協会
TEL:0263-47-6789

かほだより

酪農生産性向上対策事業の令和5年度 第2回目(後期)のバルク乳検査が始まります

松本家畜保健衛生所では、生乳の品質と生産性の向上を図るため、後期のバルク乳細菌検査(黄色ブドウ球菌やマイコプラズマなど)を生産者団体と協力して行いますので、採材・検査へのご協力をお願いします。

なお、当該バルク乳を用いて牛ウイルス性下痢(BVD)ウイルスの遺伝子検査も併せて行います。

第2回目(後期)の採材日程

JA 木曾, その他の酪農家・・・10月上旬
南信酪農業協同組合・・・10月中旬～下旬
JA 大北, JA あづみ, JA 松本ハイランド・・・10月下旬

※詳細は別途家保又は生産者団体から連絡します。

バルク乳検査の分離菌でわかること

伝染性の細菌

黄色ブドウ球菌や無乳性レンサ球菌、マイコプラズマなどが原因となり、伝染性乳房炎を起こします。

搾乳時に感染乳汁を介して感染が広がるため、早期の感染牛特定が重要です。

搾乳環境が原因の細菌

環境性ブドウ球菌や環境性レンサ球菌、大腸菌群などが原因となり、環境性乳房炎を起こします。

前期のバルク乳検査では、大腸菌群が多く分離されたため、乳頭口を含めた、適切な乳頭清拭を行いましょ。

耐熱性菌と低温細菌

これらの菌は、搾乳機器の劣化や、搾乳ラインの洗浄不足による乳石の蓄積などによって増加し、牛乳の風味異常をもたらします。

今一度、搾乳機器の点検や、洗浄方法の見直しを行いましょ。

検査の結果、バルク乳から BVD ウイルスや乳房炎の原因菌が検出された場合は、個体乳の検査による感染牛の特定や、搾乳立会等による問題点の検討も可能ですので、当所までお問い合わせ下さい。



(問合せ先)
松本家畜保健衛生所保健衛生課
神戸(課長)、松下、岩本(担当)